

保育者養成における子どもと音楽の関わりの一考察

～オペレッタの取り組みによる学習成果～

岡崎 裕美

The study of interpretation of music and children in nursery teacher training

～ A result of learning operetta ～

Hiromi OKAZAKI

(キーワード：・音楽劇・オペレッタ・音楽表現・歌う表現・グループ研究)

1、問題と目的

「幼稚園教育要領」の領域「表現」の[内容の取扱い](1)では、「豊かな感性は、自然などの身近な環境と十分にかかわる中での美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。」とある。また、(2)では、「幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。」とある。

表現の一つである「歌う」ことは、最も身近な音楽表現の手段であり、感情表現をすることを最大の目的としている。では、まず、人が「音楽を好きになる要因」を考えてみよう。好きな音楽を聴くと心が落ち着く、心と身体がウキウキする、歌ったり、楽器を演奏したり、曲に合わせてダンスをすると楽しくなる。では、逆に「音楽が嫌いになる要因」はどうだろう。歌うこと、楽譜を読むこと、演奏すること、身体を動かして踊ったりすることが苦手である、自信がない、等、と思っている。性格によって違いはあるものの、これらの要因が考えられる。

では、幼児期においてはどうか。音楽を好きになるには、幼少期に音楽が楽しいものとして受け入れることができる環境や経験がいかに大切であるかということが大きく影響する。

楽譜を読んだり書いたり器楽演奏ができるよ

うになるには、ある程度の年齢と学習が必要であるが、筆者は、子どもにとっての音楽の原点は歌であると考えている。

日常の環境に歌があるかないかで大きく影響する。一番そばにいてと思われる母親が歌を口ずさんでいることそのことだけで子どもの音楽の芽が生まれる。音楽の種を植えるための第一歩は生まれて初めて聴く子守歌であり、母親の歌声ではないだろうか。

もちろん、持って生まれた才能は成長と同時にどこかのタイミングで開花してくるが、音楽の環境が整っていないとその才能の芽が開花するチャンスやタイミングは大きく違ってくるであろう。

そして、成長の段階では、幼稚園・保育園の中での音楽も大きく影響することになる。保育園・幼稚園という初めての集団生活の中では、家庭での環境とは違った音楽に触れ、音楽の幅が広がる。音楽は、保育の日常の中で、いろいろなあそびを通して、またお遊戯や、運動会、お誕生会、クリスマス会、等の年中行事のイベントを通して不可欠なものである。

あそびには、歌あそび、指あそび、手あそび、表現あそび、ふれあいあそび、ゲームあそび、ハンカチあそび、等々、わらべ唄にルーツを持つ様々なあそびがあるが、それらはどれも歌を歌いながら遊ぶことで成立する。その点から考えても、子どもの音楽的な成長に歌が音楽を好きになるか嫌いになるか、また、得意になるか苦手になるかを左右することになるのは、大人

になった私たち自身を振り返ってみると大なり小なり実感できる。

そこには、指導者の存在の大きさは計り知れない。母親の腕の中で聴いていた優しく温かい歌声で育まれた音楽の芽は、やがて指導者によって育まれるといっても過言ではない。その責任は言うまでもなく重大である。

大人と違って、子ども自身が指導者を選べない年齢である以上、保育現場の先生、音楽教室の先生、または、個人レッスンの先生が、その子どもにとってどんな存在であるかを見極めることはとても大切である。

音楽であれ、スポーツであれ、大人も子どもも、その物事に対して負の作用、つまり自信を失うことやストレスが働いてしまうと、いわゆるトラウマになり、伸びる芽を摘み取ってしまうことになりかねない。

程度にもよるが、できれば、そんなことがないに越したことはない。ましてや、大人と違って経験の少ない子どもにとってはなおさらである。良き指導者を選ぶことは簡単なことではないが、少なくとも、その子どもの感性を否定することなく、どんな小さなことでも、誉めて育てることが大切であると考えます。

その小さな「できること・できたこと」を見逃さない心の目や耳を持った指導者が誉めてあげたり認めてあげる言葉かけの一つ一つこそ、その子どもの成長の何よりの励みになる。

音楽という、目に見えない大切なもの、素晴らしいものに対して、心響く環境の中で嬉しさや楽しさや切なさを感じることで、そして、表現したい！という意識が芽生えた瞬間こそが音楽の芽でないだろうか。

大人も子どもも、感性は人それぞれで、決して強要するものではない。だからこそ楽しいのである。子どもたちの自由な心に寄り添って音楽を楽しむことが、その子どもの音楽の翼を広げることになるであろう。

本研究では、中学2年生を対象とした「保育内容の研究（音楽表現）」の授業で行われたオペレッタの演習における取り組みの成果から、保育者養成における子どもと音楽の関わりについて探った。

II、子どものための音楽劇「オペレッタ」のねらい

1、子どもがオペレッタを経験することのメリット

オペレッタは、保育の音楽表現の総合的な活動であり、幼稚園、保育園では、お遊戯会、発表会などに引き上げられ、子どもたちと保育者が一緒になって取り組む大きな行事の一つである。言語劇と違って、音楽そのものが物語の世界観を担ってくれるので、「音楽」と「歌」が演じる子どもたちの負担を軽減し、サポートしてくれる。

また、オペレッタは、みんなで作り上げることにより、協力する気持ちや思いやりの気持ちが育つ。これは、集団で学ぶことの大きなメリットである。自分以外の人の気持ちを考えるいい機会になる。みんなで相手の気持ちを考えることで表現が振り付けに反映され、いいクラス作りにもなる。オペレッタは、園生活でしかできない活動であり、園生活の大切な思い出になる。

2、オペレッタを経験することが成長発達に役立つ要素

オペレッタは子どもの成長発達に役立つ多くの要素が含まれている。幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿の10項目は、1、健康な心と体、2、自立心、3、協同性、4、道徳性・規範意識の芽生え、5、社会生活との関わり、6、思考力の芽生え、7、自然との関わり・生命尊重、8、数量・図形、文字への関心・感覚、9、言葉による伝え合い、10、豊かな感性と表現とある。オペレッタの取り組みは、この全ての項目に触れることができる。

3、オペレッタの指導における重要点

オペレッタを発表会の演目に掲げた瞬間から保育者は子どもたちへの指導がスタートするが、そこで大切な事は、発表会の為にオペレッタを練習するのではなく、日常の保育の中に取り入れながら指導することが望ましい。

また、指導書等の振り付けにとらわれず、それぞれの園の子どもたちに合わせて自由にアレンジすることも大切である。みんなで作るオ

保育者養成における子どもと音楽の関わりの一考察

ペレッタの魅力を指導者自身が楽しみながら、子どもたちと一緒に作ってみることで、子どもたちのやる気を育て、「できた!」「楽しかった!」という気持ちを大きく豊かに伸ばし、子どもたちひとりひとりの自信に繋げてあげたいものである。子ども同士で応援し合えることは貴重な体験であると考えます。

これらのことを踏まえ、保育者養成校でオペレッタを経験することは同じようなメリットがあり、実際に取り組んだことで作品への導入から発表までの指導の流れを学習することができる。保育者養成校の学生達には1作品でも経験しておいて頂きたい。

Ⅲ、授業における実践

本学の2年生対象の授業「保育内容の研究(音楽表現)」では、表現遊び、イメージトレーニング、身体表現などの演習を経てオペレッタの演習に取り組んだ。オペレッタ作品は「赤ずきんちゃんにおまかせ!」である。配役は、クラスを4役に分け、一役多人数とした。指導の流れは、子どもたちへの指導とほぼ同じ経過をたどる。異なることは、授業では衣装制作や成果発表を含めて4コマの中で行う為、保育現場における練習課程での「ごっこ遊び」等へ展開は講義で学ぶことにした。

1、作品のあらすじ

教材としたオペレッタ「赤ずきんちゃんにおまかせ!」(花輪 充:作)、は、「赤ずきんちゃん」「三匹のこぶた」「おおかみと七ひきのこやぎ」の3つのお話でできている。配役は、あかずきんちゃん、こぶた、こやぎ、おおかみの4役である。

あらすじは、赤ずきんちゃんがお庭で遊んでいると七ひきのこやぎがおおかみに追われて逃げ込んでくる。赤ずきんちゃんは、力強く追い払ってくれる。しばらくすると、三匹のこぶたが逃げ込んでくる。そしてまた、赤ずきんちゃんが追い払ってあげる。すると、おおかみが寂しそう近づいてくる。実は、今まで意地悪をしていたことを謝りに来たという。そこでみんなは、みんなが仲良く遊べるためのルールを決め

る。1ーみんなのものを壊さない。2ーみんなのことを驚かさない。3ー誰にでも優しくする。おおかみはこの約束をきちんと守ってみんなと楽しく遊ぶというお話である。

このように、共通して登場するおおかみのキャラクターを微笑ましくユーモラスに描いた作品である。

2、歌唱

それぞれの役の歌を全員で歌唱し、声のトーンやキャラクターのイメージを膨らませる。ここで大切なことは、全員が全ての役の歌唱を何度も練習することである。お話や台詞を歌うことで進行される音楽劇においては、歌唱をしっかりと学習することで次の振り付けに入りやすくなる。なぜなら、歌をしっかりと覚えていないまま振り付けに入ってしまうと、振り付けで精一杯になってしまい、歌が疎かになりがちである。振り付けは、少なからず歌詞とリンクしているので、歌いながら動いたほうが覚えやすく、また、感情移入もスムーズになる。このような理由から歌唱の練習時に作品のイメージを十分に広げることからスタートしたい。

3、振り付け

授業では、指導書の振り付けを基本に練習を行った。保育の現場では、子どもたちがよく知っている赤ずきんちゃんのイメージや、どんなことをして遊んでいるのか等を話し合い、それらを積極的に取り上げ、おおかみとのごっこ遊びなどから振り付けをまとめるよう心がけるよう指導した。

4、衣装制作

オペレッタ等の衣装材料であるビニパック、カラーのテープ、スズランテープ、フェルト等を使用し、工作紙とゴムを使用してそれぞれの役のお面を制作した。役のテーマカラーを決めることで、一役多人数で演じる際にはキャラクターがまとまりやすく一体感が出る。制作においては、学生たちの自由な発想でデザインすることにした。同じ役でも刺激合って個性豊かに楽しく作ることができる。

5、背景と演出

指導書を参考に、タイトルの文字数(14個)の同じ大きさのダンボールを用意し、1箱に1文字を描く。そのダンボールの裏面には赤ずきんちゃんの家をイメージした絵(レンガや花壇)を貼りつける。ダンボールを上手側と下手側に積み、その真ん中にスペースを取り、門を作って登場人物の出入りができるようにした。

こと

- ・AチームとBチームでお互いに見せ合ったこと
- ・みんなで役になりきって演じたことで、終わった後の達成感は半端なかったこと
- ・協調性が重要であったことがわかったこと
- ・役割があるという視点から見ることで面白かったこと

IV、結果とまとめ

1、結果

オペレッタの成果発表を経て、オペレッタを初めて経験した学生のレポートの自由記述から、学生の言いたいことを以下わかり易くまとめた。

(1) 初めて経験したオペレッタについて

①楽しかったこと

- ・自分たちで動きを考えること
- ・音楽と劇が合わさったものをやるのが新鮮だったこと
- ・最初は全然できなかった演じること、歌うことなどが練習していくうちにどんどんできるようになっていき、最後は達成感を感じることができたこと
- ・自分たちで衣装を作ったこと
- ・役毎に分かれてポーズをつくったりすること
- ・三つのお話を混ぜて歌いながら踊ること
- ・お話の世界に入ったような気持ちになったこと
- ・みんなが見ている中で役を演じることが緊張したし、少し恥ずかしかったが、最後の発表ではその緊張も楽しさに代わって一緒に演じている仲間と息を合わせながら踊ったり笑ったりするのが楽しかったこと
- ・子どもたちがどうやって動けば楽しいかを考えたこと
- ・表情豊かに演じることで、見ている人も楽しくなることがわかったこと
- ・演じる前に一つ一つのお話を振り返ったことで、想像しやすくなり、より楽しい気持ちになったこと
- ・他のチームの演技を見るのも楽しかったこと
- ・役によって声を変えて歌うことが面白かった

②難しかったこと

- ・役の心情を表現すること
- ・恥ずかしさをなくすこと
- ・歌と振り付けを同時に集中すること
- ・踊りながら歌うこと
- ・如何に子どもが楽しめるかを考えて振り付けやセリフを工夫するのが重要であり大変だと思った
- ・歌っていない時の演技が大切であること
- ・振り付けを考えること
- ・前列と後列の子どもたち全員が見えるように心がけること

(2) 衣装制作について

①楽しかったこと

- ・オオカミっぽく見せるためにテープの色を工夫したこと
- ・みんな同じ材料である中で、いろいろなアイデアでみんな違った衣装が制作できたこと
- ・同じ素材から人それぞれの衣装ができること
- ・友だちを相談しながら楽しく作ることができたこと
- ・ビニール素材で素敵な衣装をつくれたことが凄かったこと
- ・ハサミで切っていくだけで衣装ができること
- ・他の人と試行錯誤しながら作ったこと

②難しかったこと

- ・動いてみるとズボンのテープがとれてしまったこと
- ・ハサミで切る時にギザギザになってしまったこと
- ・切り過ぎてしまったこと

保育者養成における子どもと音楽の関わりの一考察

(3) 子ども達にオペレッタを指導する際に、大切なことは何でしょう？

①歌（音楽）について

- ・まず歌を覚えてから振り付けをすること
- ・音楽になれる為に、日ごろから曲を流すこと
- ・自分以外の役でも歌ったり踊ったりできるようになること
- ・まず歌うこと
- ・繰り返しのある歌を選ぶこと
- ・繰り返し聴くことで覚えることができること
- ・お話を理解しておくことで歌詞が覚えやすいこと
- ・先歌いをする事
- ・覚えられるまで歌詞を貼っておくこと
- ・歌を丸暗記させるのではなく、日常保育の中で楽しみながらやること
- ・歌が歌えるようになってから振り付けを練習すること
- ・お話の一つ一つを確認してから音楽を聴くこと
- ・明るい音楽、不安で困っている音楽、寂しい音楽などの雰囲気を理解すること
- ・歌詞をしっかりと丁寧に教えてあげること
- ・心情を一緒に考えること
- ・自分の役以外の歌も歌えるようにすると楽しくなること
- ・歌も全力で歌うことで、自分自身がより楽しくなること
- ・間違ってもいいから声に出して歌うこと

②振り付けについて

- ・保育者がはっきりと大きく動作をすること
- ・大きな振りで細かいところもわかるようにすること
- ・少しずつ分けて練習すること
- ・遊びに関連させること
- ・役になりきれるように振りを指導すること
- ・できる限り子どもたちと作成し、自由な発想を大切にすること
- ・まず子どもたちに役のイメージを持ってもらうこと
- ・実際に踊ってみないとわからないことが多いと思うので、踊りながら途中でアドバイスや声かけをしながら指導すること

- ・一つ一つ丁寧に大きく体を動かして見せること
- ・一つ一つの動きの説明、意味を考えることで、わかり易く踊ることができること
- ・場面の状況を説明して雰囲気味わって踊れるようにすること
- ・みんなでごっこ遊びをしながらまとめていくこと
- ・教えるのではなく、子どもの表現を大切にすること
- ・初めから役を決めず、全員で全部の役をやってから決めること
- ・全部の役を全員ができるようにしておくこと

③演出（配役）について

- ・まず物語を理解させること
- ・それぞれの役に役割があって、どれも大切だということを劇を通して感じてもらうこと
- ・絵本を読んでおくこと
- ・絵本を繰り返し読み聞かせすること
- ・役の人数が偏らないようにすること
- ・事前に3つの話をしっかりと理解しておくこと
- ・自分が今どんな気持ちなのかを考えて踊ること
- ・仲良しグループが固まることのないよう、自分のやりたい役を言えるような雰囲気づくりをすること
- ・全ての役を演じ理解してから練習すること、待つことができるようになること
- ・全ての役が大切であることを伝えること

④衣装・背景の大道具などについて

- ・何度も使えるように制作すること
- ・それぞれの役の特徴を伝えること
- ・安全であったり、重くなかったりすること
- ・自分たちで作ることで愛着がわき、大切に取扱いたり自信をもって披露することができること
- ・難しい物や最低限度の準備は指導者がやり、手伝いたい子どもには一緒に作ってみること
- ・背景の色塗り等一緒にできるところは子どもたちと一緒にやってみること
- ・役の気持ちになりきって演じること

(4) オペレッタを演じてみることで、子ども達の何が育つと思いますか？

- ・表現することの楽しさ
- ・みんなでひとつのものを作る仲間意識
- ・役になりきることの楽しさ
- ・ひとつのことを最後までやり抜く気持ち
- ・物語をイメージして入り込んでいく想像力
- ・表情が豊かになる
- ・友だちとの友情が深まる
- ・曲に合わせて動くこと、友だちと協力すること
- ・チームワークや協力する力がつく
- ・みんなで一つのものを作り上げる喜び
- ・お話の世界に入り、自分を表現する楽しさや嬉しさを味わうことで表現力や伝える力が育つ
- ・協力しようとする気持ちや、演じる楽しさを知ることができ、想像力も人間関係の5領域も全てがバランスよく育つ
- ・楽しみながらごっこ遊びへと展開できる
- ・他人の気持ちを考える力やそれを表現する力が育つ
- ・音楽の楽しさ
- ・人前に出ることの楽しさ
- ・友だちと関わりながら進めていくことにより、集団で動くことを経験することができたり、コミュニケーションの能力が育つ
- ・他人のことを考え育てることができる、そのことが実際に友だちとの関係の中で相手の立場で考えることに繋がる
- ・友だちを仲良くなれる

2、まとめ

オペレッタを経験することで、学生達の表現に対する意欲が高まり、保育現場での活動に具体的に繋がったようである。練習の回数を重ねる毎に生き生きと表現している姿が見られ、音楽表現としてのオペレッタの楽しさや達成感を味わえたようである。また、自分の役が作品の中でどう表現すればよいかを考えることで、作品の深さができ、観客へのお話のメッセージ性が高まることも実感できたようである。

このような作品を何作品か経験し、将来は園でのオリジナル作品の発表ができるようになることを願っている。

オペレッタ 『赤ずきんちゃんにおまかせ』についての感想レポート用紙

学籍番号 ()

氏 名 ()

1、初めて経験したオペレッタについて

①楽しかったこと

②難しかったこと

2、衣装制作について

①楽しかったこと

②難しかったこと

3、子ども達にオペレッタを指導する際に、大切なことは何でしょう？

①歌（音楽）について

②振り付けについて

③演出（配役）について

④衣装・背景の大道具などについて

4、オペレッタを演じてみることで、子ども達の何が育つと思いますか？

【参考 引用文献】

- ・幼稚園教育要領解説 (株)フレーベル館
- ・教育課程部会幼児教育部会：資料6「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方について（報告）」(平成22年11月11日)に基づく整理

保育者養成における子どもと音楽の関わりの一考察

・オペレッタ「あかずきんちゃんにおまかせ！」

花輪 充：作 （株）メイト